



クリ [栗]

5本の樹

落葉 / 中高木 / 木本植物 / 在来種



科名 ブナ科 (APGⅢ)

特記 生長：やや速い

国内で栽培されているのはニホンクリ。野生のシバクリの改良品種で、筑波、丹沢などがある。寒さに強いが、日が当たらないと収穫が減る。葉は、鋸歯の先端まで緑色になることがクヌギと異なる。また、セイヨウクリの園芸品種に、葉の外側に黄斑が入るバリエータがある。



満開時 (雄花)



新葉と雄花



雌花



実

Memo

クリの冬芽もクリの形をしている。冬芽は樹種により動物の顔などにも見えるので観察すると面白い。

お手入れカレンダー	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
花 期						■	■						
果 実										■	■	■	
黄 葉												■	■
施 肥			■										
剪 定		■	■		★★								■

★：花芽分化の時期（分化後に剪定すると花付が少なくなる）

好みの環境					
日当り	陽	○	○	×	陰
土 壤	乾		○		湿
寒 さ	強	○			弱
暑 さ	強	○			弱
潮 風	強		○		弱

観賞ポイント	姿	花	葉	紅葉	黄葉	実	香
	○					○	

ポイント

4月頃、新梢の先に花芽が形成され、翌年に開花し結実する。日当たりがよいと花芽形成もよくなる。自家不和合性のため、異なる品種を混植したり、同一樹に異なる品種を接ぎ木した苗を使うとよい。

剪 定

樹冠内にも日が当たるように、枝抜き剪定により枝を整理すると、花芽をたくさんつける。4月には新梢に翌年の花芽が形成されるので、先端を刈り込むと花つきが減り、収穫も減ってしまう。

病虫害

特に被害を受ける害虫は、クリタマバチ（新芽に産卵して虫こぶをつくる）。1979年に導入された天敵(チュウゴクオナガコバチ)により被害は激減した。また抵抗性のある品種も作られている。

呼べる鳥



[カケス](#)・[アカハラ](#)

呼べる蝶



[トラフシジミ](#)・[ムモンアカシジミ](#)